

---

# 理に抗いたかった18

敬愛

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

理に抗いたかった18

### 【Nコード】

N8567I

### 【作者名】

敬愛

### 【あらすじ】

頭の中にもやもやと浮かんできたちよつとした自問自答を詩にしてみました。少し童話にも近いかもしれません。

そんな時には夢を見るんだ。楽しい夢を。

小人がお話始めるよ。コソコソ。コソコソ。

聞き耳立てたらケンカしてるよ。

この世で大事な物だって。金、女、命、仕事、平和、信念、家族。

七人いるみたい。

しっちゃんかめっちゃんか武器を持ち出してきた。

ある者は怒り、ある者は悲しみ、ある者は喜び、闘っているよ。

まるでこの世の縮図だね。

僕は寝言で叫ぶ。全部夢だったらおまいらの存在は消える。

思想と同じさ。いつでも手だれの暗殺者が始末しよう

てぐすねひいているんだよ。僕もその一人。さあ消えてくれ。

楽しい夢は現実の世界で見るから。

小人は出て行った。

今日と明日はつながらない。僕一人だもの。「世界には僕だけだ。」

目覚めて立ち上がり薬を飲む。

嘘とホントが入り混じるリアルの世界は澱んでる。

僕の頭の中はバラバラになって全てを拒む。

寝て起きて、寝て起きて、寝て起きて、僕は何の為に生まれたんだろ

う。そんな初歩的な思考さえ自分の名前が思い出せないくらいの異常事

態のような危うい脆い明日への糧になれない思考だ。

明日が見えない。出口はどこ。まるで迷宮だ。夢も現実も滑稽な迷い人

に答えを提示してくれない。明日こそ、明日こそ、明日こそ楽しい夢を

見るんだ。何かがそこにあるんじゃないか。人は夢を買えるのでしょ

か。僕には分からない。

でも一つだけわかる事があるんだ。

とても大切な事。

それは「育てていく事」

僕の中で末梢でぐるぐる周ってる遺伝子にかけられた鍵は神様に盗られた。いや神様という名のただの生き物だ。宝物の鍵さ。

みんな等しくカギを抜き取られた。それは神様がどうしても秘密にして

おきたかった事なんだ。

けれども生物数十億年の歴史でよきにつけ悪きにつけ

ぼくらは育ってきた。いや育まれてきた。

感謝の気持ち芽生え始めた。真の創造主を探し出す旅だったかもしれ

ない。伝えたい一心。篤い信仰に似ていた。

万世一系の血筋は尊く、宇宙の理より正しい事はない。

しかし僕らは争った。そんな不変な真実が怖くて。変わる事が怖くて。

変わらないことも怖くて。

狂った戦士が暴れ、血とナミダが流れた。

時の流れにつれて人は成長し、代わりに流すのは汗水になった。

パンをくわえ、ベトベトのつり革につかまり、子供を大切にし

老人は未来の自分だと手を差し伸べ、歯車とわかつていて自らに油をさ

す。明日は見えない。でも怖くない。そう思っていた。

この街で 音楽も食べ物も燃料も酸素も、赤ちゃんや老人のおむつのよ

うに消費されていく そんなこの街で生きていく。

時に天にツバを吐きかけたくなったり、家に着いては人知れず泣き、

それでもこの街で生きていきたい、そう「願う」 そう願った。

しかし神と呼ばれる生き物は「君の願いは叶えられない」と言う。  
それは僕

の夢が現実と夢の狭間においてきぼりになってるかららしくて、僕は落

伍者になるべき宿命の者が持つ特性だからだそうだ。育てる事も育まれ

る事も出来なくなった。人の輪からはじき出され勢いよく寝て見る夢の

中に連れ帰させられた。僕は人とは違うのか。夢の中の住人なのか。

夢の中で金と女が大事と声高に叫んでいた小人が夢の中で言った。

「やっぱりお前はダメな奴だ。弱い奴だ。俺達という事を信じる。俺達

は力だ。単純明快な力だ。力が欲しいだろう。」

嘘だ、全部嘘だ。僕はダメじゃない。弱くない。世界はみんな嘘っぱち

だ！七人の小人が集まってそれぞれ違う事を言う。だけど本質は俺を信

じろという事に変わらない。僕は信じる物にすがりついた。抱きしめ

た。手の平から砂が零れ落ちるような感覚の後、夢から覚めた。今日  
日は

クリスマス。枕もとにプレゼントが置いてあった。手紙の山だった。

底に一万円札が入っていた。神様はいない。いるかもしれないけど  
創造

主は元々ゼロだったと感じた。アダムもイブも作り話のような気がする。  
手紙は僕が両親に充てた手紙だった。それは僕の歴史だ。僕の  
全て

だ。今生きているそれが宝物なんだ。ジョーカーがかけたカギは幻  
だ。

いつでも力はそこにある。手を伸ばして触るだけでいいんだ。

そんな気がした。家族が大事と言っていた小人が満面の笑み

を浮かべていた。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8567i/>

---

理に抗いたかった18

2011年10月6日06時16分発行